消防年報

令和２年版

夕張市消防本部

は　し　が　き

　この年報は、令和２年中における夕張市の消防現勢及び火災・救急をはじめとする各種統計を収録したものです。

　なお、この年報は特記したものを除き、令和２年１２月３１日現在で収録したものです。

令和３年９月

夕張市消防本部

目　　次

１．夕張市の現況と消防の沿革

(1) 地　勢 ---------- 1 頁

(2) 人口・世帯・消防職員数の推移 ---------- 2 頁

(3) 消防の沿革 ---------- 3 頁

２．総　務

(1) 消防機構図 ---------- 18 頁

(2) 消防職員配置表 ---------- 19 頁

(3) 消防職員の勤続年数表 ---------- 20 頁

(4) 消防職員の年齢構成表 ---------- 20 頁

(5) 消防職・団員教育訓練等 ---------- 21 頁

(6) 消防職員特殊技能資格 ---------- 22 頁

(7) 消防団員配置表 ---------- 23 頁

(8) 消防団員の勤続年数表 ---------- 24 頁

(9) 消防団員の年齢構成表 ---------- 24 頁

(10) 叙位・叙勲・褒章受章者名簿 ---------- 25 頁

３．警　防

(1) 車両配置表 ---------- 29 頁

(2) 無線局一覧　①基地局 ---------- 30 頁

②固定局 ---------- 30 頁

③陸上移動局No.１ ---------- 31 頁

③陸上移動局No.２ ---------- 32 頁

(3) 消防水利 ---------- 33 頁

(4) 消防庁舎・分団詰所 ---------- 34 頁

４．救急・救助

(1) 月別救急出動・搬送人員件数 ---------- 35 頁
(2) 曜日別救急件数 ---------- 36 頁
(3) 時間別救急件数 ---------- 37 頁
(4) 過去５年救急出動・搬送人員件数 ---------- 38 頁
(5) 傷病程度別搬送人員数 ---------- 39 頁
(6) 年齢区分別搬送人員数 ---------- 40 頁
(7) 救急講習実施状況 ---------- 41 頁
(8) 過去５年間救助件数 ---------- 42 頁

５．予　防

(1) 火災概況 ---------- 43 頁
(2) 月別火災状況 ---------- 44 頁
(3) 覚知別火災発生状況 ---------- 44 頁
(4) 原因別火災状況 ---------- 45 頁
(5) 過去５年間の地区別火災件数 ---------- 45 頁
(6) 過去10年間の火災状況 ---------- 46 頁
過去10年間における火災種別の割合 ---------- 46 頁
(7) 危険物製造所等の設置状況 ---------- 47 頁

(8) 危険物製造所等地区別設置状況 ---------- 48 頁
(9) 危険物製造所等許認可状況 ---------- 49 頁
(10) 手数料収入額状況 ---------- 49 頁
(11) 対象別避難訓練実施状況 ---------- 50 頁
(12) 防火管理者が必要な防火対象物及び防火管理者選任数 ---------- 51 頁
(13) 建築確認同意①(用途別・構造別) ---------- 52 頁
②(地区別・用途別) ---------- 52 頁
(14) 防火団体 ---------- 53 頁
(15) 予防技術資格者 ---------- 54 頁

１．夕張市の現況と消防の沿革

（１）地勢

消防本部
消防署
消防団本部
分団
富良野市
三笠市
岩見沢市
中央末広分団
南部分団
富野分団
若鹿分団
夕張市消防本部
夕張市消防署
夕張市消防団本部
清水沢分団
女性分団
栗山町
沼の沢分団
占冠村
紅葉山分団
むかわ町
滝の上分団
厚真町

（２）人口・世帯・消防職員数の推移

人口・世帯数

人　　口	男	3,447　人	7,430　人
	女	3,983　人	
世　帯　数			4,407　世帯

人口・世帯数・消防職員数の推移（過去２０年分）

区分 年別	人　口	世　帯　数	消防職員数
平成１３年	15,081	7,391	55
平成１４年	14,626	7,264	53
平成１５年	14,134	7,092	53
平成１６年	13,806	7,031	51
平成１７年	13,417	6,867	50
平成１８年	12,828	6,628	47
平成１９年	12,198	6,392	38
平成２０年	11,739	6,224	38
平成２１年	11,355	6,128	40
平成２２年	10,944	5,970	39
平成２３年	10,588	5,833	40
平成２４年	10,211	5,679	38
平成２５年	9,801	5,476	39
平成２６年	9,440	5,319	38
平成２７年	9,056	5,183	40
平成２８年	8,685	5,009	40
平成２９年	8,362	4,876	41
平成３０年	8,087	4,755	41
令和元年	7,769	4,586	40
令和２年	7,430	4,407	41

（３）消防の沿革

明　治	
３０年　７月	私立夕張第１砿消防組発足
３５年　６月	本町１・２・３丁目火災　焼失戸数 435 戸　死者 13 名
１１月	公立登川消防組発足　棚橋久作氏が初代組頭　就任
３９年　５月	本町４・５丁目火災　焼失戸数 515 戸
４２年　４月	公立登川消防組２部制を採用
４３年　８月	丁末１・２区火災　焼失戸数 115 戸
大　正	
３年　３月	本町４丁目火災　焼失戸数 157 戸
５年　５月	私設大夕張（南部）消防隊発足　並木松之助氏が隊長に就任
７年　２月	村名　夕張と改称　公立夕張消防組となる
８年　１月	公立紅葉山消防組発足　野瀬辰五郎氏が初代組頭に就任
９年　６月	大夕張（南部）義勇消防組発足　新豊利右衛門氏が組頭に就任
１０年　５月	公立夕張消防組３部制を採用　水谷新次郎氏が二代目組頭に就任
１１年　４月	本町４・５丁目火災　焼失戸数 339 戸
５月	公立夕張消防組４部制を採用　南部立根氏が三代目組頭に就任
	公立真谷地消防組発足　高橋善工門氏が初代組頭に就任
	ガソリンポンプ１台購入
	公立夕張消防組器具置場２か所新設
１２年１２月	公立夕張消防組　成績優秀につき金馬簾１条使用許認
	公立夕張消防組　中川平蔵氏が四代目組頭に就任
１３年　７月	公立夕張消防組　田代末吉氏が五代目組頭に就任
１４年　８月	公立夕張消防組　両角嘉平氏が六代目組頭に就任
９月	大夕張義勇消防組を公立大夕張消防組に改組
	小紙元春氏が初代組頭に就任
１５年　４月	公立楓消防組発足　福原信俊氏が初代組頭に就任
７月	公立夕張消防組　成績優秀につき各部全員金馬簾２条使用許認

昭　和	
２年　２月	高松１区火災　焼失戸数 119 戸
３年　１月	公立真谷地消防組　成績優秀につき金馬簾１条使用許認
３月	公立真谷地消防組ガソリンポンプ１台購入
４月	公立夕張消防組　特科部（破壊班）設置
４年　４月	高松１区火災　焼失戸数 165 戸
８月	公立清水沢消防組発足　太田顕太郎氏が初代組頭に就任
９月	公立夕張消防組第２部詰所　本町５丁目１条通りに新設
	三菱大夕張鉱業所鹿島移転
１０月	私設三菱大夕張義勇消防組（３部制）発足
	公立夕張消防組第３部を本町１丁目に新築移転
１１月	特科部器具置場を警察署前に設置
５年１１月	本町２丁目火災　焼失戸数 235 戸
	三菱大夕張義勇消防組を公立大夕張消防組に合併改組
	本部を千年町に置き３部制を採用（１部千年町、２部南部３部鉱業所）
６年　４月	公立沼の沢消防組発足　三好定太郎氏が初代組頭に就任
９年　９月	公立夕張消防組　常備制採用常備消防本部設置
	岡村亀吉氏が初代本部長に就任（常備員９名）
	公立大夕張消防組規律訓練優秀につき金馬簾１条使用許認
１０月	旭町火災　焼失戸数 194 戸　死者１名
	ポンプ自動車２台購入　本部第２部に配置
１０年　１月	公立夕張消防組　岡村亀吉氏が七代目組頭に就任
５月	公立夕張消防組第２部本町４丁目に詰所を新築移転　望楼（14m）設置
１２年１０月	公立夕張消防組常備消防本部長　岡村亀吉氏が退任
	越田雪次郎氏が二代目本部長に就任
１４年　４月	勅令「警防団令」公布により、公立夕張消防組を夕張警防団に改組
	部落消防組を分団として統合
	前田一氏が初代警防団長に就任（常備本部 17 名）
１５年　３月	前田一氏が夕張警防団長を退任
４月	能瀬荘吉氏が夕張警防団二代目団長に就任
５月	大夕張警防団発足（大夕張分団が夕張警防団から独立）
	山内亀三郎氏が初代団長に就任
１６年　５月	山内亀三郎氏が大夕張警防団長を退任

６月	片岡頼義氏が大夕張警防団長二代目団長に就任
７月	夕張警防団第２部増改築 常備本部を移転し、ポンプ自動車２台配置
	第１部、第２部を本部に統合
	夕張警防団第３部（本町１丁目）にポンプ自動車１台、常備員２名配置
	夕張警防団清水沢分団にガソリンポンプ１台配置
９月	ポンプ自動車１台購入　常備本部に配置
１２月	第７部（若菜）にポンプ自動車１台　常備員１名配置
１７年　２月	能瀬荘吉氏が夕張警防団長を退任
３月	大夕張警防団３部制を採用（第１分団　鉱業所、第２分団　千年町
	第３分団　南部）
	宮崎猪三郎氏が夕張警防団 三代目団長に就任
１８年　４月	市制施行 大夕張警防団　鹿島警防団に改称
１９年　８月	宮崎猪三郎氏が夕張警防団長を退任片岡頼義氏が鹿島警防団長を退任
９月	万仲余所治氏が夕張警防団四代目団長に就任
	松井栄氏が鹿島警防団三代目団長に就任
２１年　１月	松井栄氏が三代目団長を退任
２月	吉田重明氏が四代目団長に就任
４月	吉田重明氏が四代目団長を退任
５月	久保簾三氏が五代目団長に就任
２２年　２月	久保簾三氏が五代目団長を退任
３月	池田幸吉氏が六代目団長に就任
４月	「警防団令」公布により、夕張警防団を夕張消防団に改称
	越田雪二郎氏が初代団長に就任
８月	鹿島警防団を鹿島消防団に改称　池田幸吉氏が初代団長に就任
２３年　３月	越田雪二郎氏が夕張消防団長を退任
４月	橘内末吉氏が団長職務代理に就任
５月	末広に夕張消防団第５部詰所を新築
	ポンプ自動車１台、常備員１名配置
１２月	夕張市消防団設置条例制定
２４年　４月	夕張市消防団設置区域　組織に関する規制制定に伴い夕張消防団
	９分団　定員 403 名　鹿島消防団６分団　定員 245 名に改組
５月	本町１・２・３丁目火災　焼失戸数 335 戸　死者１名

	池田幸吉氏が鹿島消防団長を退任
６月	石坂秀一氏が二代目団長に就任
１０月	橘内末吉氏が夕張消防団長職務代理者を退任
１１月	消防本部設置条例が制定され、消防本部及び消防署設置
	菅原重太郎が初代消防長に就任　職員 57 名任用発令
	福田正実氏が夕張消防団二代目団長に就任
２５年　５月	石坂秀一氏が鹿島消防団長を退任
６月	肥後国吉氏が三代目団長に就任
	丁末分遣所、真谷地分遣所設置　ポンプ自動車各１台、職員各１名配置
	清水沢市街火災　焼失戸数 52 戸
１０月	ポンプ自動車１台購入
１１月	清水沢分遣所設置　ポンプ自動車１台、職員各１名配置
２６年　５月	肥後国吉氏が鹿島消防団長を退任
６月	新井格二氏が四代目団長に就任
９月	ポンプ自動車１台購入
２７年　５月	真谷地市街火災　焼失戸数 121 戸　死者１名
２８年　５月	南部分遣所設置　ポンプ自動車１台、職員各２名配置
６月	空知消防操法訓練大会ポンプ車操法に中央分団が出場し準優勝
２９年　４月	豪雨と融雪出水による水害　末広、鹿の谷、新千代田で浸水家屋 237 戸
	新井格二氏が鹿島消防団長を退任
５月	福原鉄夫氏が五代目団長に就任
９月	台風 15 号による風害　全市で風害による被害家屋 367 戸
３０年　２月	福原鉄夫氏が鹿島消防団長を退任
３月	中山正人氏が六代目団長に就任
４月	消防職員定数改正（定員 80 名）
１２月	ポンプ自動車２台購入　丁末分遣所　南部分遣所に配置
３１年　４月	中山正人氏が鹿島消防団長を退任
５月	福田正氏が七代目団長に就任
３２年　６月	ポンプ自動車２台購入　清水沢分遣所、沼の沢分団に配置
３３年　４月	消防職員定数改正（定員 95 名）
７月	ポンプ自動車２台購入　若菜出張所、紅葉山分団に配置
９月	台風 22 号による風水害　全市で風水害による被害家屋 261 戸

３４年　４月	清水沢分遣所を出張所に改組　職員７名配置
９月	菅原重太郎が消防長を退任
１０月	南正吉（消防本部次長）が消防長に就任
	日本損害保険協会からポンプ自動車１台寄贈される
１２月	福田正氏が鹿島消防団長を退任
３５年　１月	志茂山正蔵氏が八代目団長に就任
２月	福田正実氏が夕張消防団長を退任
３月	岩田信夫氏が三代目団長に就任
４月	消防職員定数改正（定員 99 名）
５月	千年分遣所設置　ポンプ自動車１台、職員２名配置
６月	清水沢出張所庁舎　市職員住宅と併設し新築移転
９月	消防本部庁舎新築　望楼、一斉指令電話（平和以北）設置
３６年　１月	ポンプ自動車１台購入　本署に配置
７月	福住分遣所設置　ポンプ自動車１台、職員２名配置
	全市で集中豪雨による水害　被害家屋 400 戸
３７年　２月	岩田信夫氏が夕張消防団長を退任
３月	北村正久氏が四代目団長に就任
４月	消防職員定数改正（定員 102 名）
７月	鹿島消防団　消防庁長官から表彰状授与
８月	台風９号による水害　全市で水害による被害家屋 338 戸
１０月	ポンプ自動車２台購入　本署、鹿島出張所に配置
３８年　４月	消防専用無線電話装置設置　基地局４局、移動局 10 局
７月	消防職員定数改正（定員 105 名）
８月	志茂山正蔵氏が鹿島消防団長を退任
	藤平寛氏が九代目団長に就任
９月	紅葉山分遣所設置　職員２名配置
１２月	ポンプ自動車２台購入　清水沢出張所、若菜出張所に配置
	鹿の谷分遣所を鹿の谷生活館（新築）に併設しポンプ自動車１台、職員２名配置
３９年　１月	ポンプ自動車１台購入　本署に配置
３月	消防本部　夕張消防団　消防庁長官から竿頭綬授与
４月	市役所より救急車の移管を受け救急業務開始　末広分遣所廃止
４０年　２月	ポンプ自動車２台購入　真谷地分遣所、楓分団に配置

４月	消防職員定数改正（定員 106 名）
	藤平寛氏が鹿島消防団長を退任
５月	吉岡和夫氏が十代目団長に就任
	沼の沢分遣所設置　ポンプ自動車１台、職員１名配置
	紅葉山分遣所庁舎新築移転
１２月	ポンプ自動車１台購入　南部分遣所に配置
４１年　１月	夕張消防団、鹿島消防団　北海道知事から竿頭綬授与
３月	夕張消防団、鹿島消防団　消防庁長官から表彰旗授与
８月	広報車購入　本署に配置
	集中豪雨による水害　若菜以北で水害による被害家屋 835 戸
１１月	ポンプ自動車１台購入　本署に配置
	南正吉が消防長を退任
１２月	夕張市助役の吉田久が消防長事務取扱に就任
	若菜出張所庁舎新築移転
４２年　４月	消防職員定数改正（定員 104 名）
４３年　２月	ポンプ自動車１台購入　本署に配置
	本署救急車を更新
３月	南部分遣所庁舎新築移転
４月	消防職員定数改正（定員 101 名）
９月	吉岡和夫氏が鹿島消防団長を退任
１０月	小泉勤氏が十一代目団長に就任
１２月	水槽付ポンプ自動車１台購入　鹿島出張所に配置
４４年　４月	消防職員定数改正（定員 99 名）
１１月	夕張市助役の吉田久が消防長事務取扱を退任
１２月	八反田政男（消防本部次長）が消防長に就任
４５年　１月	ポンプ自動車１台購入　鹿島出張所に配置
３月	登川駐在所庁舎新築移転
	千代田中学校火災
６月	指揮車購入　本署に配置
１１月	日本損害保険協会からポンプ自動車１台の寄贈を受け、沼の沢分遣所に配置
４６年　８月	北村正久氏が夕張消防団長を退任
９月	安達敏雄氏が五代目団長に就任

	ポンプ自動車１台購入　鹿島出張所に配置
	小泉勤氏が鹿島消防団長を退任
１０月	浅山五生氏が十二代目団長に就任
４７年１２月	安達敏雄氏が夕張消防団長を退任
４８年　１月	高山泰氏が六代目団長に就任
３月	ポンプ自動車１台購入　本署に配置
４月	乗用車１台購入　本署に配置
８月	災害用救命ボート購入　本署に配置
１０月	ポンプ自動車２台購入　清水沢出張所、菊水分団に配置
１１月	浅山五生氏が鹿島消防団長を退任
１２月	佐藤健一氏が十三代目団長に就任
４９年　３月	登川駐在所を楓分遣所に改組　職員２名配置
４月	南部分遣所を出張所に改組　職員４名配置
	菊水分遣所設置　ポンプ自動車１台、職員２名配置
１１月	沼の沢分遣所庁舎新築移転　職員２名配置
	ポンプ自動車１台購入　南部出張所に配置
１２月	福住分遣所廃止
５０年　４月	消防職員定数改正（定員 96 名）
７月	北海道消防操法訓練大会小型ポンプ操法に中央分団が出場し準優勝
８月	八反田政男が消防長を退任
９月	鵜川伸（水道部長）が消防長に就任
	一丁目分遣所庁舎新築
１１月	ポンプ自動車１台購入　本署に配置
	旧北陵中学校火災
５１年　３月	末広分団器具置場新設　ポンプ自動車１台配置
６月	佐藤健一氏が鹿島消防団長を退任
７月	太田好彦氏が十四代目団長に就任
５２年　８月	千年分遣所廃止
１０月	救急車（2B 型）１台購入　清水沢出張所に配置
１１月	南部出張所庁舎新築移転　職員８名配置
	菊水分遣所廃止
	電話普及により火災報知機撤去
５３年　１月	ポンプ自動車１台購入　南部出張所に配置

４月	消防職員定数改正（定員 94 名）
８月	高山泰氏が夕張消防団長を退任
９月	品川義雄氏が七代目団長に就任
１０月	消防職員待機住宅１棟４戸新築（南部東町）
	夕張市消防音楽隊発足（隊員 27 名）
１２月	丁末分遣所廃止
５４年　１月	富野分団詰所移転改修　ポンプ自動車１台配置
２月	ポンプ自動車１台購入　清水沢出張所に配置
４月	消防職員定数改正（定員 91 名）
５月	鵜川伸が消防長を退任
６月	中村克好（市長公室長）が消防長に就任
１１月	滝の上分団詰所新築移転　消防職員待機住宅１棟４戸新築（南部東町）
５５年　１月	ポンプ自動車１台購入　本署に配置
５月	太田好彦氏が鹿島消防団長を退任
６月	安月允也氏が 15 代目団長に就任
９月	日本損害保険協会からポンプ自動車１台の寄贈を受け真谷地分遣所に配置
１０月	真谷地分遣所庁舎新築移転
１２月	ポンプ自動車１台購入　本署に配置
５６年　４月	消防署の組織に関する規程（以下、署組織規程）改正
	清水沢出張所、南部出張所を支署に改組
７月	北海道消防ポンプ車操法に清水沢分団が出場し準優勝
１０月	ポンプ自動車１台購入　紅葉山分遣所に配置
１１月	沼の沢分遣所ホース乾燥塔　サイレン塔新設
	品川義雄氏が夕張消防団長を退任
１２月	石川十四夫氏が八代目団長に就任
５７年　４月	消防職員定数改正（定員 83 名）
７月	中村克好が消防長を退任（総務部長発令）
	小椋正一（民生部長）が消防長に就任
１０月	富野分団サイレン塔新設
	ポンプ自動車１台購入　沼の沢分遣所に配置
５８年　３月	安月允也氏が鹿島消防団長を退任
４月	星靖男氏が十六代目団長に就任

	消防職員定数改正（定員 80 名）
１０月	清水沢支署庁舎及び待機宿舎新築移転　同支署に通信指令室を設置
	消防緊急指令装置及びサイレン吹鳴遠隔装置を導入
１１月	ポンプ自動車１台購入　楓分遣所に配置
１２月	鹿島出張所新築移転
	夕張南高等学校火災
５９年　４月	消防職員定数改正（定員 78 名）
５月	三菱南大夕張炭鉱下請従業員宿舎火災（鹿島栄町）
	保険金目当ての放火による出火　消防職員１名殉職
６月	指揮車購入　本署に配置
８月	ポンプ自動車１台購入　一丁目分遣所に配置
９月	日本損害保険協会から救急車(2B 型) １台が寄贈され清水沢支署に配置
１０月	夕張消防団夕張新炭鉱分団を清陵宮前分団へ改称
６０年　９月	ポンプ自動車１台購入　鹿の谷分団に配置
１１月	署組織規程改正
	一丁目分遣所、鹿の谷分遣所、真谷地分遣所を廃止、分団へ移行
６１年　４月	消防職員定数改正（定員 73 名）
９月	ポンプ自動車１台購入　南部分団に配置
１１月	消防署組織の規程改正　楓分遣所を廃止分団へ移行
	小椋正一が消防長を退任
１２月	夕張市助役　中村克好が消防長事務取扱に就任
６２年　５月	夕張市助役　中村克好氏が消防長事務取扱を退任
６月	夕張市助役　梶田秀男が消防長事務取扱に就任
	夕張市助役　梶田秀男が消防長事務取扱を退任
	星靖男氏が鹿島消防団長を退任
７月	佐々木茂（消防署長）が消防長に就任
	野田眞氏が十七代目団長に就任
９月	末広分団車庫増築
	消防職員定数改正（定員 67 名）
	ポンプ自動車１台購入　若菜出張所に配置
１１月	幌南分団詰所新築
１２月	若菜出張所庁舎新築移転
	救急車更新　本署に配置

６３年　４月	署組織規程改正
	若菜出張所、鹿島出張所を分遣所へ移行
	夕張消防団長　石川十四夫氏が北海道消防協会長に就任
５月	夕張消防団長　石川十四夫氏が日本消防協会副会長に就任
６月	第４０回北海道消防大会開催（於　夕張市総合体育館）
８月	日本消防協会から指令広報車１台が寄贈され清水沢支署に配置
１０月	消防職員定数改正（定員 65 名）
１１月	広報原調車購入　本署に配置
	水槽付消防自動車購入　清水沢支署に配置
平　成	
元年　９月	ポンプ自動車１台購入　中央分団に配置
１１月	鹿の谷分団詰所新築
２年　７月	野田眞氏が鹿島消防団長を退任
８月	日本消防協会から救急車（2B 型）１台が寄贈され清水沢支署に配置
	日本消防協会から婦人消防隊に軽可搬ポンプ２台が寄贈される
９月	ポンプ自動車１台購入　幌南分団に配置
１０月	消防職員定数改正（定員 63 名）
	日本損害保険協会から水槽付消防自動車１台が寄贈され本署に配置
１１月	夕張消防団条例改正
	鹿島消防団が夕張消防団に統合
	菊水分団を廃止　１本部 15 分団　定員 387 名に改組
	夕張消防団に初の女性消防団員 30 名入団
３年　８月	日本消防協会から婦人消防隊に軽可搬ポンプ１台が寄贈される
９月	ポンプ自動車１台購入　滝の上分団に配置
１０月	消防職員定数改正（定員 60 名）
	第７回全国婦人消防操法大会に婦人消防隊出場（横浜市）
４年　９月	ポンプ自動車１台購入　富野分団に配置
１０月	消防職員定数改正（定員 58 名）
１１月	富野分団詰所新築　サイレン吹鳴遠隔装置更新
５年　９月	第 17 回婦人防火全国大会開催（於　夕張市総合体育館）
	ポンプ自動車１台購入　沼の沢分遣所に配置
１０月	佐々木茂が消防長を退任
１１月	竹村弘二（消防本部次長）が消防長に就任

１２月	署組織規程改正
	南部支署を清水沢支署に統合　南部分遣所に改組
６年１１月	署組織規程改正　沼の沢分遣所を廃止、分団へ移行
７年　３月	竹村弘二が消防長を退任
４月	石井忍（消防本部次長）が消防長に就任
	夕張市消防本部及び消防署設置条例改正
	消防本部及び消防署を清水沢宮前町（旧清水沢支署を増築）へ移転
	署組織規程改正　清水沢支署を消防署に消防署を本町支署に、清水沢支署南部分遣所を消防署南部分遣所に、清水沢支署紅葉山分遣所を消防署紅葉山分遣所に改組
	鹿島分遣所を廃止、分団へ移行
１１月	消防団条例改正　夕張消防団を夕張市消防団に改称
１２月	若菜分遣所を廃止、分団へ移行
８年　１月	沼ノ沢４部にサイレン１基増設
３月	紅葉山分遣所を紅葉山 165 番地から紅葉山 117 番地に新築移転
１１月	在宅老人緊急通報システム本署通信指令室に設置
	ポンプ自動車１台購入　本署へ配置
	救急自動車（2B 型）１台購入　本町支署に配置
１２月	消防本部庁舎（43.06 ㎡）を増築
９年　６月	石井忍が消防長を退任
７月	藤村吉彦（消防署長）が消防長に就任
	指令車１台購入　本部へ配置
	北海道消防操法大会ポンプ車操法に夕張市消防団が出場し準優勝
１０年　３月	藤村吉彦が消防長を退任
	石川十四夫氏が団長を退任
４月	板谷義昭（消防本部次長）が消防長に就任
	大西巖夫氏が団長に就任
	大夕張分団が解団　１本部 14 分団　定員 366 名に改組
１１年１０月	道東自動車道　千歳、夕張間開通
	高速自動車道事故対策訓練実施
１２年　１月	火災原因調査車１台購入　本部に配置
３月	高規格救急自動車１台購入　本署に配置
	板谷義昭が消防長を退任

４月	菅井信治（産業経済部長）が消防長に就任
７月	清陵宮前分団が解団　１本部 13 分団　定員 350 名に改組
１１月	梯子自動車（15m）１台購入　本署に配置
１３年　４月	中央分団詰所を本町支署へ移設　南部分遣所を廃止、分団へ移行
１４年　１月	資機材搬送車（クレーン付、２ｔ車）１台購入　本署に配置
３月	菅井信治が消防長を退任
４月	渡邊孝紀（消防本部次長）が消防長に就任
	本町支署を本町出張所に改称
	本町支署の救急２号車を引揚げ、本署に配置
６月	石狩川水防公開演習に夕張市消防団 23 名参加
９月	夕張消防公設 100 年記念事業実施
１５年　６月	本町地区サイレン移設
１１月	自治体消防 55 周年記念大会出席
１６年　９月	台風 18 号の暴風により全市で家屋被害、長時間停電被害、農業、土木、観光施設被害等　117 棟
１２月	低気圧の暴風・大雪による長時間に渡る停電被害
１７年　３月	渡邊孝紀が消防長を退任
４月	佐藤公穂（消防本部次長）が消防長に就任
９月	夕張市防災訓練実施
１８年　１月	指揮広報車購入　本署に配置
２月	水槽付き消防ポンプ自動車Ⅱ型購入　本署に配置
４月	南部分団と幌南分団が統合　１本部 12 分団　定員 350 名に改組
１０月	紅葉山分団と楓分団が統合　１本部 11 分団　定員 350 名に改組
	夕張市消防本部の組織に関する規則（以下、本部組織規則）及び署組織規程改正
１２月	夕張市消防音楽隊廃止
１９年　３月	佐藤公穂が消防長を退任
４月	鷲見英夫（消防本部次長）が消防長職務代理を就任
	本部組織規則及び署組織規程改正
	消防本部に防災係、消防署に庶務・団係新設
	本町出張所を廃止、分団へ移行
	紅葉山分遣所を廃止、分団へ移行
	中央分団と末広分団が統合し中央末広分団へ　１本部 10 分団

	定員 260 名に改組
９月	真谷地分団と沼の沢分団が統合　１本部９分団　定員 260 名に改組
２０年　４月	若菜分団と鹿の谷分団が統合し、若鹿分団へ　１本部８分団 定員 260 名に改組
９月	大西巖夫氏が団長を退任
１０月	小西真三氏が団長に就任 JA 共済連北海道本部及びホーチキ株式会社から救急自動車並びに救急資機材寄贈　高規格救急車にぎ装　本署に配置
２１年　４月	鷲見英夫（消防長職務代理）が消防長に就任
６月	夕張市消防本部に防災倉庫新築
７月	機構改革により消防グループ制導入
１０月	高規格救急車購入　本署に配置
２２年　１月	消防署隣接地にヘリポートを整備 旧本町出張所を解体
４月	夕張市消防長の任命資格を定める条例制定
５月	大型水槽車購入　本署に配置
１２月	消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅰ型）購入　若鹿分団に配置
２３年　３月	東日本大震災により緊急消防援助隊として職員３名派遣
５月	東京消防庁新井総監が夕張・東京交流事業のため視察
７月	訓練塔設置
１０月	道東自動車道　夕張、占冠間開通 高速自動車道事故対策訓練実施
１２月	消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅰ型）購入　紅葉山分団に配置
２４年　１月	夕張・東京協力事業の開始　東京消防庁から派遣職員６名が市内において消防事情調査を実施　夕張市消防本部から１名が東京消防庁消防学校において研修を聴講
４月	女性分団発足　菅原光子氏が初代分団長に就任
１２月	消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅰ型）購入　中央末広分団に配置 鷲見英夫が消防長を退任 増井佳紀（消防本部次長）が消防長に就任
２５年　１月	東京消防庁との協力・交流事業　東京消防庁から派遣職員６名が市内において消防事情調査を実施　夕張市消防本部から２名が東京消防庁消防学校において研修を聴講し、八王子消防署で実務研修を行う

３月	夕張市防災講演会を実施（於　清水沢地区公民館）
１２月	消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅰ型）購入　沼の沢分団に配置
２６年　１月	東京消防庁との協力・交流事業　東京消防庁から派遣職員４名が市内において消防事情調査を実施　夕張市消防本部から２名が東京消防庁消防学校において研修を聴講し、八王子消防署で実務研修を行う 夕張市防災マップを作成
１１月	東京消防庁との協力・交流事業　東京消防庁から派遣職員４名が市内において消防事情調査を実施　夕張市消防本部から２名が東京消防庁消防学校において研修を聴講し、八王子消防署で実務研修を行う
１２月	高機能消防指令システム運用開始 消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅰ型）購入　富野分団に配置
２７年　１月	消防デジタル無線運用開始
１２月	消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅰ型）購入　滝の上分団に配置
２８年　４月	機構改革により課制に移行
９月	小西真三氏が団長を退任
１０月	阿部広昭氏が団長に就任
２９年　１月	消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅰ型）購入　南部分団に配置 札幌市消防局との交流事業　夕張市消防本部から４名が札幌市消防局において現場に即した研修を受講
１０月	高規格救急車購入　本署に配置
３０年　１月	消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅰ型）購入　清水沢分団に配置
９月	北海道胆振東部地震 北海道広域消防相互応援協定により職員７名派遣
３１年　３月	緊急消防援助隊設備整備費補助金により、屈折はしご付消防自動車購入本署に配置 訓練場に車両車庫新設 水槽付消防ポンプ自動車水Ⅰ－A 型購入　本署に配置
４月	地区人口の減少により、１本部９分団、定数 195 名に改組 石炭博物館模擬坑道火災　４月 18 日から５月 13 日まで北海道開発局、北海道広域消防相互応援協定により広域応援隊として道央地区 19 消防本部が出動

令　和	
２年　１０月	消防本部及び消防署において、新型コロナウイルス感染症の集団感染（クラスター）が発生。消防体制の確保が困難となったため「北海道広域消防相互応援協定」に準じ 10 月 15 日から 29 日までの間、道央地区１８消防本部から延べ 116 隊 367 名の広域応援隊が派遣された。
１１月	高規格救急車購入　消防署に配置